

令和 6 年度国臨協関信支部地区代表者会議議事録（要旨）

日 時：令和 7 年 1 月 25 日（土） 13：00～15：30

場 所：国立がん研究センター中央病院 管理棟 1 階 第 2 会議室

出 席

国臨協関信支部役員（敬称略・順不同）

吉田 茂久、齋藤 広樹、中村 良幸、白井 洋平、荒木 涼、井田 貴明、千木良 浩志
寺戸 一昭、中谷 道昭、山口 卓哉、渡辺 順也、遠藤 隆、椎名 将昭、熊谷 豊

地区会代表（敬称略・順不同）

茨城地区会：山田 晃子

栃木地区会：宮澤 寿幸

群馬地区会：瀬下 明子

埼玉地区会：沼田 正男

千葉地区会：中谷 穂

東京地区会：関 竜二

東京・山梨地区会：阪 旨子

神奈川地区会：瀬戸 茂誉

新潟地区会：岩崎 聖二

関東信越グループ 医療担当（敬称略）

熊谷 豊

欠 席

国臨協関信支部（敬称略・順不同）

齋藤 ひとみ、藤井 勇樹、矢崎 裕一郎

地区会代表（敬称略・順不同）

長野地区会：内川 正弘

1. 開会の挨拶（齋藤副支部長）

2. 支部長挨拶

お休みのところ午後からお集まりいただき誠にありがとうございます。また平素より皆様方には支部運営にご理解とご支援をいただきましてありがとうございます。この場を借りて厚く御礼申し上げます。本日は年に 1 度の各地区会代表者と支部役員との意見交換の場として重要な会議となっておりますので忌憚のないご意見をいただき活発な討議をしていただければと考えています。

本日は何卒よろしくお願いいたします。

3. 臨床検査専門職挨拶

令和 6 年度国臨協関信支部地区代表者会議にあたりましてご挨拶させていただきます。新型コロナウイルス感染症が 2 類相当から 5 類感染症に移行しまして医療体制も大きく変化し、生活様式も元に戻る中、現在インフルエンザが猛威を振るっていますが、各種会議等が対面開催を行える様になってまいりました。本日はご出席いただいております各地区代表者の方々におかれましては業務多忙の中ご参加いただきましたことに心より感謝申し上げます。新年を迎えましたが昨年は令和 6 年能登半島地震がありましたが今年は何事もなくスムーズなスタートが切れたと思っております。

さて昨年の各地区会を振り返りますと研修会・総会、その他懇親会を含めてフルバージョンで開催する地区会が多々ありました。本来の姿に戻りつつあることを実感しております。そしてコロナ禍で培われた Web を利用する方法、これを上手に組み合わせていくことによって個々の会員の状況に合わせた参加方法が選択できるようになったことで、より会員の皆様が利用しやすく、身近に感じるようになったのではないかと思います。今後は継続していかなくてはならないもの全てを踏襲していく訳ではなくて、そのあり方や意味、開催方式等を考えるタイミングにあると思っております。

本日の会議では地区会と関信支部との連携の中、活発な討議をしっかりと行っていただき今後の在り方に繋がるような話し合いができればと思っております。この後の討議の中で追加情報といたしましてご提供できることがありましたらお話しさせていただこうと思っております。

最後になりましたが、本日の会場をご準備いただきました吉田支部長をはじめとする国臨協関信支部理事の皆様には深く御礼申し上げます。

4. 令和 6 年度関信支部役員・地区代表者自己紹介

5. 関信支部経過報告(令和 6 年 4 月 1 日～令和 6 年 12 月 12 日)

資料は事前に配布し、追加発言および質疑応答がある場合のみ討議を行った

1) 事務局

事前配布資料から訂正があり、2024 年 11 月 1 日時点の本年度総会員数(会費納入者数)は 681 名、埼玉地区会会員数 50 名、千葉地区会会員数 102 名、東京・山梨地区会会員数 148 名に訂正を行った。

2024 年 11 月 1 日時点の本年度総会員数(会費納入者数)は 681 名であった。関信支部各地区会との連携、国臨協本部・臨床検査専門職・技師長協議会との協力・連携、文化活動、国臨協 OB 会関信支部との交流、諸会議の開催、国臨協関信支部ホームページの活用、関信支部規約改正、その他として令和 6 年度国臨協関信支部表彰等について報告した。

また経過報告期間における受理文書、受理メール、発送文書、発送メールについて報告した。

2) 学術

Web 会議システム Zoom の契約、令和 6 年度国臨協関信支部学術委員会部門長会議の開催、国臨協関信支部主催研修会の開催、国立病院機構関東信越グループ主催研修会、第 52 回国臨協関信支部学会、Web 会議ツール利用状況、学術委員会活動について報告した。

3) 広報

国臨協関信支部ニュースは令和6年11月までに紙媒体として1回、PDF版(臨時号、学会特別号)を2回発行した。紙媒体の発行を昨年の2回から1回とし、PDF版の発行を2回に増刊した。昨年度から継続して「アフターコロナ通信」および「学術のススメ」といった企画を盛り込み、会員の皆様との相互利用の場として紙面の向上に取り組んできた。

国臨協関信支部ホームページは、関信支部活動や地区会情報誌の掲載、国臨協OB会関信支部だよりの掲載、第52回国臨協関信支部学会のコンテンツ作成等の更新を適時行った。また、ホームページ更新のお知らせを施設連絡責任者宛にメール配信を行った。9月30日にホームページ管理について、外部委託会社と契約を締結し、管理業務の移行も完了した。期間内のホームページ更新内容、国臨協関信支部ホームページのアクセス解析等を報告した。

4) 地区代表者質疑応答

群馬地区会：瀬下 明子

ホームページ掲載依頼の締め切りはいつまでなのか。

関信支部回答

毎月20日頃締め切りで、翌月の掲載になる。

6. 監査報告(前期) 監事：椎名 将昭

1) 監査方法

10月26日(土)横浜医療センターにて開催されました。支部からは吉田支部長、井田理事にご対応いただき、会務活動、会計について監査を実施しました。

2) 監査結果

① 事務局

令和6年7月現在の組織状況として昨年に比べ会員数が減少したものの650名の会員数となっています。各地区会との連携や国臨協本部、臨床検査専門職、技師長協議会との協力・連携もしっかりと行われていました。理事会は、ほぼWeb会議となっておりますが、今後のZoom利用については引き続き検討課題といたします。文化活動については、支部主催のビアパーティーが予定されておりましたが、コロナ感染症の状況により中止となったことは非常に残念であったと感じます。

② 学術

今年度は国立がん研究センター中央病院にて5年ぶりの集合型開催となりました。

集合型開催の経験がない理事が大半の中での開催でしたが、参加人数も273名とコロナ前の開催時と同様の参加者となり概ね成功裏に終わったと感じました。ただ、演題数が30題程度と少ない状況にあることや、会場の整備や人員配置等、限られた環境の中ではありますが、改善が必要な点も散見され、今後の課題としました。今後は、学会全体のタイムスケジュールや開催方法等の検討が必要と考えました。学術活動として、研修会の開催や国立病院関東信越グループ主催研修会の参画については今後も積極的な活動を望みます。

③ 広報

支部ニュースについては、4月に第235号を紙面にて発行しました。また臨時号として5月にホームページにアップロードしました。ホームページのアクセス数やアクセス解析につきましてはほぼ例年通りの状況となっております。ホームページの外部委託先への移行

作業を 8 月から行っており、11 月には完全に移行され、今後は外部委託による運営が開始されるとのことです。外部委託にすることでよりスピーディーなホームページの更新となるよう期待いたします。

④ 会計

令和 6 年度前期の会務決算報告書を基に帳簿、領収書、通帳と照合を行い、適正に管理されていることを確認いたしました。支出割合に関しても過度な支出等もなく、問題ないと考えます。

以上、令和 6 年度前期の会務内容、会計は適正であり、理事の会務執行に関して不正行為や規約に違反する事実はないことを認めます。

7. 各地区会経過報告

1) 地区会報告（10 地区）

地区会代表者より組織状況、活動状況、会議関係、広報活動、学術関係、文化活動関係等の報告が行われた。

8. 各地区会提出議題

資料は事前に配布し、追加発言および質疑応答がある場合のみ討議を行った

各地区会の提出議題には全て回答した（要望および質問は原則、原文の通り記載）

1) 事務局関連

(1) 支部理事の人数・業務について（群馬、新潟、茨城、栃木）

- 今後の支部活動において理事への負担軽減につながる会務のスリム化や縮小化等の考えはあるのでしょうか。
- 関信支部理事への負担が大きいと感じる。会員のニーズの多様化にあわせ活動メニューの縮小化など、理事の負担軽減となる改善や工夫に取り組んでいただきたい。
- 支部理事の人数は適正か？支部ニュースの年間発行数を減らし、ホームページもアウトソーシング化して理事の負担が減っているように思える。また、各地区に配置しても当該地区の理事が全施設と連携しているわけではない。
- 2 年後の国病学会の関東甲信越の開催で理事の増員または減員はあるのか。

回答：支部 HP 管理業務の外部委託化が完了した為、次年度は役員を 1 人減とする。

令和 8 年に第 80 回国病学会が横浜で開催予定であり、関信支部が担当となる。2 年を掛けて準備を進める必要もあり、令和 8 年度までは会務負担が大きくなることはご理解いただきたい。出来るだけ各施設での日常業務に影響を及ぼさないよう配慮・工夫に取り組んでいく。支部ニュースの作成については、紙媒体での発行を減らした分を PDF 版で作成・掲載しており、業務量としてはほぼ変わらない。経費削減を主とした取り組みであるとご理解いただきたい。

(2) 地区会との連携について（群馬、埼玉、東京、神奈川、栃木）

- 以前は会長及び副会長と理事という形で各地区会に出席していただいて関信支部との交流を持っていたかと思います。コロナの感染状況も落ち着き、各地区会活動も徐々に復活して集合型開催となってきています。今後の関わり方についてどのようにお考えなのかお伺いしたいと思います。
- 各地区会より理事が選出されていたが（埼玉地区会以外）、今後も同様に選出されるのか？選出されない場合は、各地区会との連携はどのように行われるのか？
- 今後の地区代表の関信支部の理事の有り方について。
- 各地区会で関信支部の理事が講演している「関信支部の活動報告」については5分程度に要点をまとめ、三役の代表が出席しているのであれば、その方が講演したほうが良いかと思います。
- 地区会事務局と支部理事との情報共有の場が多いと地区会会員へのフィードバックが充実されるのではないかと。

回答：コロナ禍の中で地区会との連携を図る取り組みとして各地区会からの役員選出をお願いしていたが、各地区会活動も再開・集合型に移行してきていることを踏まえ、次年度から各地区会からの役員選出依頼は行わないこととする。

次年度から地区会定期総会への役員派遣依頼を頂いた場合は、基本的に支部三役から1名派遣し活動報告を行わせていただく予定である。その際に支部へのご意見・ご要望等があれば伺わせていただきたい。また、支部メールアドレスや「会員の皆様の声」でも随時受け付けているので是非ご活用をお願いします。

「関信支部活動報告」について、昨年度の地区代表者会議にてマンネリ化しているところのご指摘をいただき、スライドの内容・デザインの刷新を行った為、例年よりボリュームが大きくなった。5分程度というのは極端だと思うが、要望が多ければ内容の簡素化も検討していく。

(3) 会議の開催方法（Web 中心では細かいところの共有ができないのでは？）（東京）

回答：集合型の会議と比較して意思疎通に影響がないとまでは言えないが、その差は軽微であり Web 形式のメリットが大きいと考えている。年に2回程度は集合型でも会議を行っており、役員の負担や経費の点からも現状の開催方法を継続していく。

(4) 近年は支部に入っていない人も見受けられるので、各地区の総会時に行っている支部報告以外に新入職者向けに支部の活動内容を紹介してはどうか。（東京・山梨）

回答：施設によっては支部報告のスライドデータを使用して紹介・勧誘いただいているところもあると伺っている。依頼があれば PDF でデータをお渡しできるのでご連絡いただきたい。または、6月の会費納入依頼時に参考資料として添付することも検討する。

(5) 「会員の皆様の声」について（茨城、東京）

- 「会員の皆様の声」を設けているが、会員に浸透していない印象。今年度の実績はあるのか？必要性や継続の是非、会員の意見聴取について代替方法は検討しているのか？

- 「会員の皆様の声」について昨年度は1件の投稿があったと記載があるが、その後投稿数は増えているか。また、どの様な声が挙がっているのか。可能な範囲で教えていただきたい。投稿数が伸びないのであれば増える工夫を考えていただきたい。

回答：現在のところ、今年度の実績は無い。支部HPのTOPに掲載しており、支部ニュースでも紹介記事の掲載を行ったが、利用が無い中、個人で要望を投稿するのはかなりハードルが高いと思われる。①の回答でも少し触れたが、元々の設置目的の一つに地区会からの要望を受ける窓口の役割というのもあるので、今回の会議でお寄せいただいた様な要望を地区会からとして投稿いただけると、地区代表者会議の時期を待たずに毎月の常任理事会で検討を行うことが出来るのは有用ではないかと思う。また、それに伴い実績が増えてくれば個人投稿においても現状から変化していく可能性もあるのではないかと考える。

2) 文化活動関連

(1) 交流会の開催形式について（東京、千葉、長野）

- コロナ以降、合同交流会・ビアパーティーなどの交流会が、企画しても感染拡大に伴い中止となっている状況である。これについては、今後も同様の状況が続くと思われる。交流会の開催方法に関しては、再度見直しが必要なのではないか。
- 研修会と交流会の分離（参加者が増えるかも）
- 集合型のビアパーティーをオンライン飲み会にしたら気軽に参加できるのではないか。
- 研修会+ビアパーティーと関信支部学会の開催時期が近いため、双方へ地方からの現地参加はなかなか厳しいです。関信支部学会後の懇親会を意見交換会にしてビアパーティーと兼ねてみてはいかがでしょうか。

回答：今年度は中止となってしまったが、令和7年度はビアパーティーを企画・開催する予定である。その参加状況等を踏まえ、令和8年度においては合同交流会の開催を検討していく。遠方からの参加を考えると、単独開催よりも研修会等と同日開催の方が参加のハードルが下がるのではないかと思う。

数百人規模でのオンライン飲み会というのは現実的では無いのではないかとと思われる。

関信支部学会+ビアパーティーとの提案については、学会閉会まで参加いただくことにも繋がると思われるので前向きに検討させていただく。

(2) 会員交流の場について（東京、千葉、長野）

- 若い会員が集える企画などがあると良いと思います。上司などいない場所で横のつながりを持てれば組織や活動に関心を持ってもらえるのではと期待します。
- 合同交流会が、感染拡大で実施できないのであれば、Webで退職者に挨拶していただき、退職者へ向けて思い出話をしていただくなど、新たな企画が必要なのではないか。
- ビアパーティーや交流会を積極的に行っていただきたい。

回答：研修会については、新人技師向けの講習会の要望があるので、集合型で行うことが出来れば併せて懇親会も企画できないか検討したい。

技師長協議会においてWebで退職者にご挨拶をいただく企画があったが、技師長協議会と支

部で共同開催し、支部会員も視聴出来るような形式が可能か検討したい。

3) 学術関連

(1) 研修会活動・症例検討会の開催方法について(東京、東京・山梨、千葉、長野)

- 研修会と交流会の分離（参加者が増えるかも）
- たくさんの人と交流をはかれる研修等を実施してほしい（特に入職5年未満の若い方）
- 研修会や検討会などは現地開催+ライブ配信、または現地開催+オンデマンド配信をしてほしい。
- 研修会など集合型開催もしつつ Web 方式も適宜、継続を希望します。
- オンデマンド配信の継続、または参集型+ライブ、オンデマンド配信を希望したい。他の学会活動など時期的に被りやすい時期でもあり、子供が小さい会員は家で育児をしながら参加でき、メリットが大きい。また、参加人数の向上にもつながると考える。
- コロナ禍で入職した技師にとって参加意義が不透明との意見もあり、参加に消極的な技師が増えた印象を受ける。業務との境界が難しいため、Zoom などを利用してなるべく参加しやすい環境が整えられることを希望する。
- 講師の確保など難しいと思うが、学会で活躍している技師が同じグループ内にいるメリットはとても大きいと思うので、地方会単位で実技研修を開催して欲しい。地区内の大きい施設を中心に若手技師を集めてやっていただきたい。

回答：過去の研修会参加人数では交流会やビアパーティーと同時開催している研修会は多く、研修会単独での開催では参加人数は少なくなっている。

会員交流を目的とする支部活動としてはビアパーティーや学会等があり、研修会については年間を通じて会員全体で学術向上の場とすることを中心に企画・運営したいと考える。

研修会開催方法については、集合型は開催場所が利便性を考慮すると東京近郊となるため、遠方の会員も参加可能なオンデマンド型やライブ型での Web 方式を中心に進めていく。

地区会での研修会については、地区会より要望があった場合に支部より学術委員会へ共有する体制となっているためご相談いただきたい。またホームページ「会員専用」→学術委員会の＜国臨協関信支部学術委員会への講演会・研修会等講師派遣依頼手順について＞を参照していただきたい。

(2) 研修会活動・症例検討会の内容について(埼玉、東京、東京・山梨、千葉)

- 関信支部研修会で認定資格試験（対策）に特化した研修会を検討して欲しい。
- 資格試験対策（2 級や緊急など）やエコーハンズなどの実技研修を実施してほしい。
- 若い役員中心でいろいろと企画等していただいているところは感謝しています。会員サイドの問題もあると思いますが、もっと会員に参加（利用）してもらえないようにしないともったいないと思います。
- 研修会内容について、
 - ・各分野の専門性に特化した実技研修を開催いただきたい。

例：性状確認培地の接種方法や確認方法、グラム染色鏡検等の微生物検査の実技研修会

脳波、心電図、超音波などの各種専門実技研修会

- ・新人技師向け講習会を定期的に開催していただきたい。

例：緊急検査、超音波検査、細胞診検査、輸血検査など

- ・接遇、クレーム対応などに関する研修会を開催していただきたい。
- ・NHO、病院等で実施している以外に医療安全、メンタルヘルスに関する研修会を開催していただきたい。

➤ タスク・シフトの進め方や取り組み方の研修を要望する。

➤ 講習内容について臨床的な講義だけでなく、検査科の経営等の講義も実施してほしい。

回答：今回意見として挙げていただいた研修内容については参考とさせていただき、年間を通じてより多くの会員が学術研鑽を図る場として企画・運営したいと考える。また各会員や地区会において具体的にどのような内容の研修会を開催してほしいとの要望があれば、ホームページ「会員の皆様の声」等で投稿していただければ前向きに検討させていただく。

実技演習に関しては、機器等を使用するため施設の確保及び講師の確保が必要であり、現在のところ関信支部が単独での対応は困難である。企業と連携して実技研修を開催することが可能であるか検討したいと考える。また地区会単位の規模で施設を利用し学術委員会の協力を得てエコーハンズオン研修などの開催がより現実的と考える。

(3) 各地区会主催研修会について(神奈川)

➤ 他の地区会での研修会で聞いてみたい内容の時、主催地区会会員ではなくても参加は可能なのか。

回答：各地区会の開催方法や内容によっては参加可能と考える。まずは地区会の協力が必要であり、連携体制の確立が課題となる。オンデマンド配信については、各地区会にて講師に許可を得ていただき、録画したデータを関信支部からホームページにて配信は可能である。前年度に長野地区会研修会の配信を行った。また集合型の開催が多くなっているので地区会より参加の許可を得られれば、関信支部でアナウンスを行い現地参加可能と考える。

(4) 支部主催研修会の参加者数について(埼玉)

➤ 支部主催研修会の参加者を増やす取り組みがあれば教えて欲しい。(第1回目の参加者数は226名)

回答：過去の実績では研修内容や開催形式、交流会等との同時開催によって参加人数が変動する傾向にある。より多くの会員に参加いただくことについては、①回答にもあるがWeb方式を中心に進めていこうと考えている。また土曜日開催としているが、ライブ型として平日の時間外開催も検討したいと考える。

4) 学術委員会関連

(1) 学術委員会の活動について(東京)

➤ ルーチンアドバイス事業のQ&Aが直近、年間1~2件程度しか報告されておらず、質問体制などについて見直しが必要ではないのか。また、学術委員会活動の充実化を図るため、取

り組みなど行っているのか。

回答：学術委員会の活動についてはルーチンアドバイス事業のみならず、支部学術活動の多くを支えてもらっているが認知されていない部分があると考え。支部学会の学会賞選考や支部主催研修会の主催・運営、支部ニュース「身に付けよう覚えよう検査技術」・「Case Study」への投稿、国病学会の「この発表いいねっ」の選考などを行っており、今年度は関信ブロック主催研修会「令和6年度 臨床検査の精度および品質確保推進研修」でファシリテーターとして参加した。

5) 学会関連

(1) 学会の開催方式について(新潟、東京・山梨)

- 地方や当日当番で参加できない会員のために、可能であれば関信支部学会をハイブリッド開催またはオンデマンド配信してほしい。
- 研修会および関信支部学会のハイブリッド開催について要望が多いため、今一度、検討いただけないか。(前回討議で費用が高額になると回答されていたが、理事が Zoom や Teams 等で学会会場を撮影しリアルタイム配信できるのではないか)
- Web 方式+オンデマンド配信希望。適宜、Web 方式+対面で開催してほしい集合方式の学会開催+Web 配信(オンデマンドのみの参加も可とする)により参加機会を広げてほしい

回答：会員の交流の場という点では前年度・前々年度の Web 方式のハイブリッド型開催より、今年度の集合型開催のほうが優れている。会計面では昨年に運営委託費として調査したところ集合型では 2,000,000 円、更にハイブリッド型を含めると 5,000,000 円と 2 倍以上運営費が必要となる。

理事が撮影しリアルタイム配信するというご意見についてはすべての演題や講演については困難と思われるが、特別講演や分科会等の音声を録音しオンデマンド配信用にスライドと編集し、配信可能なクオリティにできるか検証したいと考える。

(2) 学会の内容について(東京)

- 関信支部学会のレベルアップ(演題登録数や発表内容)
- 毎年の登録演題数は 30 前後で少ない印象です。何か演題数を増やす工夫をしてみてもどうか。

回答：登録演題数については一時期の 10~20 題から 31 演題と徐々にではあるが増加している。この演題登録数や発表内容のレベルアップは会員や施設の協力が不可欠であり、積極的に投稿していただきたい。また登録演題数を増やすことのみを考えれば投稿規定の条件を下げることも一考としてあるので検討する。

(3) 学会企画について(茨城)

- 今年度の関信支部学会にて特別講演と有志の分科会が同時刻に開催されたが、そのため両講演を聴講することは不可能であった。特別講演と有志の分科会は可能ならば時間をずらして開催するなど、両講演を聴講できるような仕組みを検討していただきたい。

回答：この両講演については内容も素晴らしく当初より同時もしくは別時間での講演にするか議論はあった。しかし 5 年ぶりの集合型で遠方からの参加者を考慮し、開催時間短縮としたため同時刻講演とした。オンデマンド型として後から聴講できる等の対応ができればよかったと考えられるため、この反省を次回に活かせるように努めていきたい。

(4) 学会抄録集について（神奈川）

➤ 学会抄録集は廃止してアプリと PDF（各自で印刷）に切り替えてはどうか。

回答：抄録集については支部内でも様々な方法を模索した中で今年度は現行通りの A4 サイズで作成した。A5 サイズで案内や日程表、演題プログラムを掲載し、抄録はホームページから各自印刷もしくはスマートフォン等で閲覧してもらった提案もあった。来年度は A5 サイズ版等を検討し、メリットが大きければ進めていきたい。

(5) 地区会ポスターについて（新潟、栃木）

➤ 作成に関わる地区理事が時間も労力も費やし相当な負担であるため、今後も継続させるのか再考していただきたい。関信支部理事の負担も大きいのでは？ 地区会として不参加という選択肢はあるのか？

➤ 地区会ポスターについては、各地区大変な作業のため廃止してはどうか。

回答：地区会ポスターについては毎年このような意見があるが、各会員や地区会によっても温度差があることも認識している。今年度はポスター印刷を支部で一括して行うなど地区会の負担軽減を図った。更に検討が必要な事項と認識しているが、一定の会員では良い評価もあるため現状では廃止の方向では考えていない。

(6) 新人賞について（神奈川）

➤ 演題募集要項では発表者が採用 5 年以内の場合は、カテゴリー番号の前に「○」を入力とあるがこれが新人発表となるのか。新卒で 5 年以内と中途採用で 5 年以内ではキャリアに大分差があるので新人発表の規定の見直しを希望します。

回答：各施設の倫理観の問題で新人発表の規定について採用 5 年を新卒や中途採用もしくは職務経歴は発表者や施設の判断で新人とするか一般に委ねたいと考える。また規定については学術委員会を交えて検討していきたいと考える。

6) 広報関連(ホームページを含む)

(1) 支部ホームページの活用について（神奈川）

➤ ホームページの充実（HP 上で e ランニング等）

回答：学術委員会提供の研修会資料等はホームページの資料アーカイブ等に随時掲載している。現在、学術委員会のページには Q&A を掲載しているが、学術情報の提供等の新コンテンツができれば随時掲載可能である。

昨年度、一昨年度の地区代表者会議にて回答させていただいたが、スマートフォンでホームページは閲覧可能である。そこで支部ニュース（232 号「関信支部ホームページの活用法を知ろ

う！」)において、スマートフォンからホームページを開き会員専用ページの支部ニュースを閲覧する方法を掲載した。今後は、さらにホームページアクセス分析を進め、どうすれば認知していただけるか検討したいと考えている

研修会等の動画コンテンツについては試みたが、動画編集や技術的な問題により実現できていないのが現状である。来年度からは、ホームページのリニューアルについても検討していく方向であるため、コンテンツの充実化を目指していきたいと考えているが、現状においては限界があることをご理解いただきたい。

(2) ホームページのアクセス数について（茨城）

➤ ホームページをアウトソーシングしているが、委託前と見た目の変化がない。

費用をかけているのであれば、もっとアクセス数の増加に繋がるようなデザインやコンテンツを導入してはどうか。

回答：来年度からは、ホームページのリニューアルについても検討していく方向で考えている。まずは、ホームページのリニューアルに必要な改善箇所の洗い出しが必要な状況である。システム改修の必要性も考えられるため、予算化し取り組んでいきたいと考えている。

アクセス数の増加に関して、支部ニュースにQRコードを掲載することでスマートフォンからのアクセス増加も目指している。今後は、スマートフォンからのアクセス数などの分析を充実させていきたいと考えている。継続してQRコードなどを掲載し利便性の向上に努めていく。ホームページアクセス数の動向（資料参照）

(3) 外部委託化について（東京・山梨、神奈川）

➤ 外部委託化して利便性の向上もしくは新しい機能は追加されているか？

➤ 今年度外部委託の試行段階と報告を受けているが進捗状況を教えてほしい。

➤ 外部委託した際には、スマホ対応できるか。スマホ対応可能であれば、会員証をデジタル会員証に移行したらどうか。（会員カード作成費、再発行費、発送費が削減できる。学会・研修会当日の会員認証もカード不要、カード忘れの受付も不要となる）

回答：9月30日にホームページ管理について、外部委託会社と契約を締結し、管理業務の移行も完了した。外部委託のメリットを活かした運用方法を構築し、利用の促進を図っていきたいと考えている。

現在のホームページは旧来のものを移行したものであるため、現状機能等に変更はない。改修の必要性は感じており、上記②でも示した通り、ホームページのリニューアルについても検討していく方向で考えている。

デジタル会員証については、個人IDでのログインが必要となることから、システム改修が必要となってくる。利便性とコストについて、システム改修と併せて今後検討をしていきたい。

7) その他

(1) 国臨協本部への要望について（東京・山梨、神奈川）

➤ 本部理事について、全国を対象に理事を募るのはどうか？通常の理事会はオンラインで

きるのでは？

- 会員名簿を以前の職員名簿に戻していただきたい。
- メールにてアンケート結果等のお知らせがある場合、HP 掲載場所を文章表示ではなく、URL リンクで出来ればお願いしたい。

回答：2 月に第 37 回国臨協全国支部長会議が開催されるので、関信支部からの意見・要望として上記内容を報告させていただく。

(2) タスク・シフト/シェアについて(埼玉、東京)

- 関信支部としてタスク・シフト/シェア推進への取り組みを検討していたら教えて欲しい。
- 検体採取等に関する指定講習会およびタスク・シフト/シェアに関する指定講習会の受講率がわかれば教えてください他施設のタスク・シフト/シェアに関する状況報告をお願いしたい。

回答：支部の事業としては、令和 6 年度第 1 回研修会をタスク・シフト/シェアをテーマに開催させていただいた。今後も研修会等でタスク・シフト/シェアへの取り組みの紹介や理解の向上を行うことで推進に寄与していきたい。

指定講習会の受講率については、国臨協本部事業である「令和 5 年度組織実態調査」にて調査が行われ、結果解析が報告されている。国臨協本部 HP に掲載されているのでご確認いただきたい。

- ・医療職（二）職員 基礎講習会受講率（全国） 1,227 / 2,116 人 58.0%
- ・医療職（二）職員 実技講習会受講率（全国） 838 / 1,227 人 68.3%

(3) ISO 認定未取得施設（未経験者）から ISO 取得施設へ異動となった場合を想定した準備などを考えていますか。または、企画立案をお願いしたい。（埼玉）

回答：この内容については国臨協技師長協議会や国臨協本部の品質管理推進委員会の領域の案件と思われる。2 月の全国支部長会議にて関信支部からの意見・要望として報告させていただく。ISO 取得施設の関連業務を研修会で紹介する等、支部として出来ることには協力させていただく。

(4) 機器選定や実際の運用相談ができるツールとして、各施設の使用機器一覧情報を作成いただくことは可能か。（東京）

回答：この内容についても国臨協技師長協議会や国臨協本部の試薬機器標準化委員会（活動休止中）の領域の案件と思われる。こちらも 2 月の全国支部長会議にて関信支部からの意見・要望として報告させていただく。

(5) NH0 では定年年齢の引き上げ（案）が提示されたが、NC はどうなっているのか。（東京）

回答：NC の定年延長の引き上げに関して、現時点では情報を入手していない。（熊谷相談役）

(6) OB 会との連携強化を目に見えるような形にしてほしい。（東京・山梨）

回答：今年度はOB会定期総会の現地開催が再開され、齋藤副支部長が参加した。また、第52回国臨協関信支部学会でもOB会に告知を行い、OB会員の参加があった。イベントなどの再開に伴い相互交流の機会も増えていくと思われるので、連絡を密にとり連携強化に努めていきたい。

8) 自由記載

- (1) 今回の要望は千葉地区会会員に対し、アンケート調査を行いました。集計結果は総回答数43件、要望あり6件、要望なし37件となっております。ご検討のほどよろしくお願いします。
(千葉)

回答：今回の活動報告書の作成に多大な労力を掛けていただき感謝申し上げます。ご要望にお応えできるよう支部活動に取り組んで参ります。今後とも何卒よろしくお願いいたします。

9) 地区代表者質疑応答

(1) 事務局関連

支部理事の人数・業務について

群馬地区会：瀬下 明子

国病学会の準備等の会務負担が大きくなるのに、次年度の理事が1人減としているのは矛盾があるのではないか。

関信支部回答

ホームページの外部委託が完了したため、その関連の特任理事を1名減にするということ。
2年後に第80回国立病院総合医学会が横浜で開催される予定で、学会運営の準備等を行う担当は関信支部となる。学会長施設は、横浜医療センターで、副会長施設は東京医療センター、高崎総合医療センターとなる。この3施設には理事を置く予定で、3施設で情報共有を行い、その情報を支部が吸い上げて準備を行っていく予定である。それに伴い国病学会関係で理事を1名増やすので、人数は現状と変わらないことになるのでご理解をいただきたい。

栃木地区会：宮澤 寿幸

第80回国立病院総合医学会の準備は大変なものになると予想される。事前の準備は十分に必要で、人員も必要と思うので協力は惜しまない。国病学会を成功させてほしいと思うので、皆さんに遠慮なく協力を求めてもいいと思っている。

関信支部回答

心強いお言葉に感謝する。神奈川地区会や神奈川県臨床検査技師会のほうにも協力をいただきながら学会運営を詰めていく。過去に横浜で行われた国病学会の運営を経験された方も推薦していただけているので、ご意見をいただきながら対応を進めていく。人員は特任理事として任命もできるので、必要であれば理事会で検討していく。総会でも議案として提出させていただくので皆様のご協力を是非ともお願いしたい。

(2) 事務局関連

近年は支部に入っていない人も見受けられるので、各地区の総会時に行っている支部報告以

外に新入職者向けに支部の活動内容を紹介してはどうか。

群馬地区会：瀬下 明子

支部にお願いしなくてもまずはその施設で説明できるのではないかな。

関信支部回答

支部としては資料を提供できるので、PDF を活用していただき可能であれば施設で対応していただきたい。

東京地区会：関 竜二

他支部でも会員数の減少は問題になっている。使用の依頼はどこにすればよいのか。

関信支部回答

事務局長または支部のアドレスに連絡いただければ事務局から提供させていただく。

(3) 文化活動関連

交流会の開催形式について

関信支部回答

新型コロナ感染者数の状況や時期、また開催方法を検討しながら、来年度はぜひとも開催をしたいと思っている。可能な限り会員の皆様に集まってもらい、親睦の場を設けたいと思っている。遠方からの参加にはご負担も多くなり申し訳ないが是非ご参加していただきたく、ご協力をお願いする。

(4) 学術関連

研修会活動・症例検討会の開催方法について

関信支部回答

研修会の開催方法は、過去の参加状況の分析結果からオンデマンド配信での開催を主に行っていく。遠方からはオンデマンド配信を続けて欲しいとの声も多いので、一定の教育の機会を設けさせていただくために、オンデマンド配信・Web 方式を用いた開催を中心に行い、集合型開催につきましては、ビアパーティーなどの交流の場と合わせながら開催をしていきたいと考えているので、ご理解の程お願いする。

(5) 学述関連

研修会活動・症例検討会の内容について

関信支部回答

ご意見等は常任理事会で討議させていただくので、ご依頼の際は「会員の皆様の声」のご利用をお願いする。

(6) 学述関連

各地区会主催研修会について

神奈川地区会：瀬戸 茂誉

前年度に長野地区会研修会の配信を行った。とあるが、経緯を教えてください。

関信支部回答

長野地区会で開催した研修会の内容が良かったので、長野地区会の依頼によりホームページより、視聴できるようにした。

神奈川地区会：瀬戸 茂誉

各地区会から関信支部に研修会データの配信を依頼すればよいのか。

関信支部回答

以前から同様の質問はいただいているが、情報の共有が難しく、著作権等の問題もあり配信が出来ないこともある。各地区会の状況をご教示いただきたい。

群馬地区会：瀬下 明子

地区会の研修会は地区会で完結していて、他地区会への公開という習慣がなかったのではないかな。地区会が検討して公開に問題がなければ、支部に連絡してアナウンスしてもらい、参加や視聴の申し込みを行ってもらうのはどうか。

関信支部回答

公開等の希望があれば、支部は協力させていただく。全国支部長会議でも討議されているがやはり権利上の問題が絡んでくる。今後、国臨協本部ホームページが整備されていけば、討議が進み研修会の情報が共有できるのではないかな。支部としては、色々な情報を提供していただき、ホームページの支部年間予定表を活用しながら速やかに情報発信をしていく。

神奈川地区会：瀬戸 茂誉

以前は地区会と支部との共同開催の研修会があったと思うので、共催の研修会もあってもいいのではないかな。

関信支部回答

共催等も協力や働きかけをさせていただくので、ご相談やご協力をお願いします。

(7) 学術関連

支部主催研修会の参加者を増やす取り組みがあれば教えて欲しい

栃木地区会：宮澤 寿幸

平日のほうに参加しやすい。短時間で興味のある内容の研修会を開催するのはどうか。

関信支部回答

ご意見を参考にし、取り込んでいけるように学術で検討していく。

群馬地区会：瀬下 明子

平日で勤務時間後に行う短時間の研修会のほうが参加しやすい。

関信支部監事：椎名 将昭

コロナ以前の 226 人の参加人数が多いか少ないかは議論が必要。印象としては、参加人数に大きな変動はないと思われる。できれば各施設で積極的に参加を促してもらえれば、参加人数の増加につながるのではないかな。

関信支部回答

ご意見をいただき感謝する。参加人数が多いから良いのかという問題もあり、また、視聴時間の検証も難しいところがある。会員の皆様に均等な機会を提供したいと支部では考えている。

そこに対する費用対効果は今後の課題となるが、今のところこのような取り組みを推進していきたいと思っている。コロナ前は規模が大きい施設で研修会を集合型で行った場合、開催施設の会員が多く参加していただいていた。当時の施設長のお力添えがあったかと思う。

このコロナ禍の5年間の影響は大きく、企業を含め専門学会が主催する集合型の研修会でも、参加人数が戻ってこないと聞いており、開催方法などについて適時対応していかないと難しいと思っている。椎名監事の意見も参考にしていきたいながら開催を検討していくので、ご協力をお願いしたい。

千葉地区会：中谷 穂

研修会の目的内容によって参加人数は変わってくる。会場の準備や費用を考えるとオンデマンド配信は必要になってくるのではないかな。コロナ前の研修会に戻す必要はないと思っているので、便利に活用できるオンデマンド配信を利用した研修会も考えてほしい。

関信支部回答

その通りだと思う。コンテンツや開催方法の問題なので、今後はスマートフォンを活用した視聴も整備していきたい。NH0や他支部でのスマートフォンのアプリを活用した教育等の方法は把握しているので、当支部でも活用していきたいと考えている。

群馬地区会：瀬下 明子

新しいツールを使用していくのはありがたいと思っている。個人の意識の変化や専門学会などでのオンデマンド配信が増えてきて希釈されてきているのではないかな。支部の努力不足で参加数が低下しているとは思っていない。十分に努力をしていると思っている。国病学会のこともあり、学習の機会は支部の研修会だけではないので、次年度以降は研修会を減らしてもよいのではないかなと思っている。

関信支部回答

いただいたご意見の検討を行い、来年度の実施計画は斎藤副支部長を中心に立案し、定期総会で審議してもらいたいと思う。

(8) 学術委員会関連

学術委員会の活動について

関信支部回答

学術委員会の活動を十分に報告できていなかったもので、今後の課題とさせていただく。来年度は学術委員会の活動状況等を常任理事会で報告して議事録に記載していく。

(9) 学会関連

学会の開催方式について

千葉地区会：中谷 穂

今後も学会費の徴収はしないのか。

関信支部回答

今年度は国立がん研究センター中央病院のご厚意で支部学会を開催したが、使用規約上、学会費を徴収すると会場使用料が発生してしまうのであえて徴収をしなかった。

来年度以降も、費用対効果を考えると国立がん研究センター中央病院での開催し、学会費の徴収を行わないほうが会員への費用負担は少ないと考えている。令和 7 年度の支部学会も国立がん研究センター中央病院での開催を予定している。

群馬地区会：瀬下 明子

演題数の確保の働きかけは必要ではあるが、演題数の確保は各施設長の責務だと思っている。ただ近年は専門学会が増えて、支部学会にエントリーする演題の確保が難しくなってきているので現状の演題数でも問題はないのではないかと。

関信支部回答

演題数の登録を増やしていくことは課題であり、各施設でも演題登録を増やしていただけるようにご協力をお願いする。

千葉地区会：中谷 穂

他の学会との重複発表は可能か。

関信支部回答

現行の抄録投稿規定では認めていない。会員からの要望があれば、規定の変更については学術委員会を交えて検討する必要があるのではないかと考えている。

東京地区会：関 竜二

演題の著作権は学会事務局が持つので、その辺りの確認も必要と思われる。

関信支部回答

頂いたご意見を参考に今後検討していく。

(10) 学会関連

学会抄録集について

神奈川地区会：瀬戸 茂誉

製本サイズを変更したときの試算はあるのか。

関信支部回答

製本代、輸送費で減額となるがそれが会員にとって利便性に繋がるかは検討が必要。

ご意見をいただいたので、定期総会までに更に検討していく。

千葉地区会：中谷 穂

実際に変更する場合、会員へのアンケート調査は行うのか。

群馬地区会：瀬下 明子

いきなり A5 サイズで発刊してみてもどうか。

関信支部回答

アンケート調査はかなり手間がかかり会務の負担が大きいので、今のところ考えてはいない。いきなりサイズ変更してみるのも一案だが、参考にして検討する。

(11) 学会関連

新人賞について

茨城地区会：山田 晃子

学会賞等の選考で、選考基準以外の要因で選考から外されることはあるのか。

関信支部回答

選考基準に基づいて、選考しているので不正や忖度のようなことはない。

(12) 広報関連（ホームページを含む）

ホームページの活用について

神奈川地区会：瀬戸 茂誉

ホームページの外部委託化についての進捗状況を教えてほしい。

関信支部回答

ホームページの管理は契約を締結し、業務移行も完了した。スマートフォンでの閲覧は可能であるが、旧来のホームページを移行したために、現在のシステム運用の基準に合致しないところがありリニューアルが必要と考えている。来年度はリニューアルに必要な改善箇所を洗い出し、再来年度の予算化に向けて費用対効果を検討しながら、ホームページの充実を図っていく。

(13) その他

国臨協本部への要望について

群馬地区会：瀬下 明子

会員名簿を以前の職員名簿に戻していただきたいとあるが、全国支部長会議で承認された経緯の説明がないので、お聞かせ願いたい。

関信支部回答

会員の会費で印刷しているものなので、純然たる会員名簿にしたいということで全国支部長会議の討議で決定した。以前の職員名簿のほうが使いやすいとも聞かれるので、直ぐに職員名簿に戻ることはないと思うが、次回の全国支部長会議で意見・要望として報告させていただく。

(14) その他

ISO 認定未取得施設（未経験者）から ISO 取得施設へ異動となった場合を想定した準備などを考えていますか。または、企画立案をお願いしたい。

埼玉地区会：沼田 正男

特に支部で ISO の研修会等を企画していただけないか。

関信支部回答

NH0 や日臨技等の他団体でも研修会を開催しているので、そちらに参加するよう促すのも良いかと思う。ご意見を参考に来年度の事業計画に組み込めるよう検討させていただく。

9. 関信支部提出議題

1) 事務局関連

(1) 中途退会者への本部会費分の返金について

現在、10 月中旬までの退会者で希望があれば本部会費分を返金する対応を取っているが、明確な期限は設定していなかった。本部への会費納入期間は 9 月～10 月末までと定められており、今後はそれに合わせて返金対応の期限を 8 月 31 日までとすることを検討している。

(2) 令和 7 年度合同交流会および集合型懇親会（ビアパーティー等）について

今年度から飲食を伴う集合型イベントを段階的に再開する予定でビアパーティーを企画していたが、直近の新型コロナの感染拡大と地区会懇親会でのクラスター発生を受け、開催直前に中止することとなった。現状を鑑みて予定を 1 年後ろ倒しし、令和 7 年度にビアパーティーを開催し、令和 8 年度での合同交流会再開を目指す。

(3) 第 53 回国臨協関信支部定期総会（電磁的表決など）について

昨年度と同様に電磁的表決と Web 総会での実施を検討している。

(4) Web 会議システム（ウェビナー）の契約継続について

次年度も通常の三役・理事会は Zoom ミーティングで行い、研修会などで Zoom ウェビナーが必要な時にスポット利用とすることとし、年間契約は行わないこととする。

(5) 令和 7 年度国臨協関信支部会費について

今年度の収支状況から次年度会費は通常通り 4,000 円とし、減額は行わないこととする。

(6) 次年度事務局事業方針案について

a) 組織の充実

懸案事項は迅速に展開し、適正、効果的かつ効率的な対応を目指す。

変化に柔軟な対応をし、組織の安定的な運営の確保、会員の需要に応じた支部活動を行う。関連協議会と各地区会および臨床検査専門職との需要に合わせた連携を深める。

b) 事務管理の向上

Web 会議システムを継続採用し、Web 会議の積極的な利用を推進する。役務分担をより明確にし、役務の見直しを積極的に行うことで役員の負担軽減を図り、会務遂行が円滑に行われるよう務める。会員の異動など各種情報や関係資料を、速やかに会員へ提供する。

c) 関係協議会等との連携

地区会：集合型または Web 形式による情報交換と交流について検討し、会員の要望に沿った会務を実施する。

関東信越グループ専門職：関東信越グループ主催の研修会等に積極的に協力する。

国臨協本部：本部事業への協力と推進を行う。

技師長協議会：技師長協議会事業に協力する。

国臨協 OB 会関信支部：情報交換を行う。

d) 関係諸団体への提言活動

関連協議会等と連携し、関係諸団体への提言活動を継続する。

e) 文化活動

会員の交流活動については新型コロナウイルス感染症等の感染状況を鑑み、Web 等を利用し文化活動の継続・発展を図りつつ、段階的な対面・集合型での開催再開を目指す。

2) 学術関連

(1) 第 53 回国臨協関信支部学会のテーマ及び開催方法について

学会テーマは「次世代への継承～現在の検査と未来の検査を考える～」に決定した。集合型にて開催を予定しており、学会会場の選定をしている。開催形式では集合型開催に向けて、外部委託利用の有無や費用について検討を行っていく。また、ライブとオンデマンドの両方もしくはどちらかを検討したいと考える。計画的な準備および開催に向けた理事の再教育等も併せて進めていく。

(2) 令和 7 年度の国臨協関信支部主催研修会の開催方法について

令和 7 年度の研修会については、理事の負担軽減や年 3 回（例年と同様に 1 回は症例検討会とする）の開催を予定する。次年度は、集合型と Web での併用にて開催を行いたいと考える。本年度同様に Web 研修会においては、多くの会員が視聴できるようオンデマンド形式での開催を考える。集合型の研修会においては、予算を含めハイブリッド型の研修も検討することとする。

(3) Web 会議ツールの今後の利用について

今年度と同様に支部での理事会等の会議にて使用するため、Zoom ミーティングは年間契約を継続する。また Zoom ウェビナーは集合型での研修会が増えていることから、年間契約ではなくスポット契約での運用が妥当と考える。また各地区会における理事会や研修会での利用を推進していく。

(4) 次年度学術部事業方針案について

a) 会員のニーズにあった学術活動の充実

タスク・シフト/シェアや DX 等を踏まえた今後ますます多様化する臨床検査に対して、会員の一助となるような専門的な知識の教育や人材育成に向けた会務を推進する。

- 学術委員会と連携し様々な情報を取り入れ、研修会の充実を図る。
- ここ数年間で培った Zoom 等の Web 会議システムの活用とともに主流であった対面方式について、それぞれの利点を活かせるような活動を計画・実施していく。
- 制限されていた地区会活動が徐々に再開されるなか、研修会等の支援体制を充実させ地区会活動の活性化に寄与していく。
- 各種協議会と連携し、人材育成に向けた活動に取り組む。

b) 学会運営

今後の学会運営を見据えながら、会員一人一人の研鑽・交流の場として学会を発展させる。

- 5年ぶりに集合型で開催した令和6年度第52回関信支部学会の反省を踏まえ、新型コロナウイルス等感染症の状況を鑑みつつ、より良い開催方法を検討する。
 - 多くの会員が参加可能で、遠方の会員も参加しやすいハイブリッド形式開催も視野に入れ検討する。
 - コンテンツや企画の見直しを行い、効率的で参加しやすい学会の運営に取り組む。
- c) 学術委員会の充実
- 会員の要望に即した学術委員会の活動を検討する。
- 学術委員会と関信支部研修会や関信支部学会における分科会等の年間事業計画を立て、必要に応じてWeb会議を開催し連携を図る。
 - 関信支部ホームページを利用し、学術委員会の活動を身近に感じる広報活動を掲載する。

3) 広報関連(ホームページを含む)

(1) 支部ニュース・ホームページの内容について

- a) 学術・文化活動の制限が緩和されている状況のなかで、再開されつつある実技研修等の学術活動や地区会活動の情報共有の場として、支部ニュースやホームページをうまく活用出来るよう務めていく。
- b) 会員が携わっている学会活動や研修会等の情報収集を積極的に行い、すべての会員に知ってもらい更に参加もしくは協力できるような学術情報を発信していきたいと考えている。
- c) ホームページ内に会員からの幅広いご意見を伺うために設置した「会員の皆様の声」の利用推進を図る。継続して利用状況や意見、要望等の内容を検証し必要に応じて随時修正していく。
- d) 昨年度に引き続き、支部ニュースにホームページと支部ニュースのアドレスおよびQRコードを掲載し、スマートフォンにおける閲覧の使用促進を図る。また、施設連絡責任者宛のメール配信時に支部ホームページQRコードを貼付けて配信する。
- e) ホームページのリニューアルに必要な改善箇所の洗い出しを行い、システム改修に向けた取り組みを行う。

(2) ホームページ管理の外部委託について

9月30日にホームページ管理について、外部委託会社と契約を締結し、管理業務の移行も完了した。外部委託のメリットを活かした運用方法を構築し、利用の促進を図っていきたいと考えている。外部委託による費用については、別紙資料の通りである。

(3) 支部ニュースの年間発行数について

今年度は経費削減や理事の会務負担軽減を鑑みて紙面の発行回数を3回から2回とした。それを補うため、臨時号と学会特別号としてPDF版を発信した。紙面発行を減らすことで経費削減となったため、来年度もこの運用は継続していきたいと考えている。更に、今後を見据え

て他号でも電子化の発行についても継続して検討していく。

4) 地区代表者質疑応答

(1) 事務局関連

令和7年度国臨協関信支部会費について

千葉地区会：中谷 穂

収支が赤字だったから4,000円に戻すのか。

関信支部回答

今年度は繰越金に余裕があったので値下げをしたが、来年度は学会の運営費等ある程度の支出が見込まれるため4,000円に戻すことにした。研修会費や学会参加費などの徴収は行わない予定なのでご理解いただきたい。

(2) 学術関連

第53回国臨協関信支部学会のテーマ及び開催方法について

関信支部回答

開催日は9月20日、開催場所は国立がん研究センター中央病院での開催が決定している。

(3) 広報関連（ホームページを含む）

支部ニュースの年間発行数について

関信支部回答

広告掲載に協賛いただいている企業の理解も得られたので、発行回数を2回にした。

広告費に頼らないPDF版で発刊することも今後の課題として検討していくので、ご理解の程よろしくお願いします。

(4) その他

群馬地区会：瀬下 明子

技師長協議会の参加者とほぼ同じなので、地区代表者会議を一緒に開催できないか。

相互の状況を共有できるような会の開催方法はないのか。

関信支部回答

実現できていない状況である。効率化の面では必要とは思っている。

栃木地区会：宮澤 寿幸

技師長協議会副会長の立場として、そのような意見がある事は把握している。事業内容の統合や、会費の流れも別で、大変な労力が必要となる。理想ではあるが、今後の課題として認識しておく。

群馬地区会：瀬下 明子

統合でなくても共同開催などを模索してもらいたい。

熊谷専門職回答

住み分け等の問題があるので、現実的には難しい課題となる。

関信支部回答

今後は協力しながら、改善できるところから活動していきたい。

10. 閉会の挨拶（中村副支部長）